

【2018年】

2018年1月には、韓国における伝統野菜・養蜂に関するレシピ集の作成のため、情報源の特定及び内容の検討を行い、韓国側のカウンターパートと調整を行った。その際、日本側メンバーも、韓国で開催された精進料理の実習にも参加するなど、具体的なレシピを基にした調理や、その背景にある伝統・文化的経緯、環境的条件等について情報収集を行うことでレシピ集を作成する準備が整った。

同年2月に、レシピ集の作成の過程で連携することとなった、韓国の伝統野菜の一つである「ケゴル大根」の生産者を訪問し、翌年、2018年9月に開催予定の日本でのワークショップ等について打ち合わせを行った。

同年3月には内山が、トヨタ財団の企画（仙台ダイアログ）に参加し、地域資源としての在来製品の存在に関して、「訪問せずとも存在してほしい存在」というあり方を、震災の遺構等の見学、議論を経て見出し、プロジェクトに還元した。

同年、5月末までにレシピ集の草案の作成及び9月に開催するワークショップについて関係者と調整を進め、韓国のレシピ集の作成に向けて、現地のプロジェクトメンバーと情報収集にあたりると同時に、生産者やレシピに関する知識を有する関係者とのネットワークを構築した。

同年9月、日中韓の連携を目的とし、9月1日と2日にワークショップを開催することができた。ワークショップでは、座学形式での参加者の発表をベースとした議論に加えて、実際に伝統野菜の産地を訪れ、現地の生産者との交流を含むかたちで、伝統野菜とその産地に直接触れる実体験を含む日中韓の参加者の交流を行った。特に、大崎市では今回のワークショップの内容をNHKラジオ等の広報媒体を通じて知り、参加された農業に関わる参加者や、現地の生産者の方と農業遺産認定地域訪問時に交流を行い、プロジェクトの趣旨への賛同と、日中韓の交流の意義をメンバー以外の参加者とも共有することができ、プロジェクトの活動について広く発信することができた。

ワークショップの準備、開催と並行して、国内における伝統野菜の生産者とのネットワーク構築も行い、秋田の松館しぼり大根の関係者を訪問するなど、9月の日中韓のワークショップの成果を共有するとともに、今後の連携について、日中韓の次回のワークショップ等への参加も含めて調整することができた。

国内の伝統野菜の調査では、日中韓の交流や類似する伝統野菜とその生産、調理法等への生産者の方々の関心は比較的高いことが、調査を通じて示唆された。

ワークショップを実施したことにより、生産者、消費者を含む多角的な観点から遺伝資源としての伝統野菜及び養蜂について、日中韓の参加者と情報共有し、生産現場を含む現場での視察と交流を行った。

最終的には、ワークショップの参加者間での積極的な交流を行い、さらなる情報共有、交流の促進に向けた足がかりを得ることができた。同時期、伝統野菜の産地として、ワークショップ参加者が訪問した宮城県大崎市では、今回のワークショップの内容をNHKラジオ等

の広報媒体を通じて知り、参加された農業に関わる参加者や、現地の生産者の方と産地と加工・販売所の訪問、座学形式での勉強会を通じて参加者間に対話が行われたことは、共感醸成につながる成果であった。

農業遺産認定地域でもある大崎市は、地域の伝統的な水路を含む農業システムを、地域の産品と合わせて地域資源として保全、活用することを進めており、そのような現場において、プロジェクト関係者以外からもプロジェクトの趣旨への賛同を得て、日中韓の交流の意義を共有することができた。

